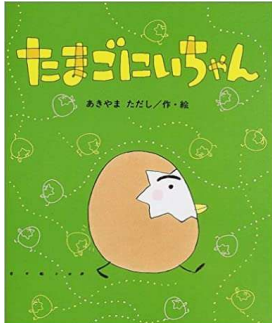




先生のおすすめ絵本

たまごにいちゃん

〈作・絵〉あきやまただし 〈出版〉鈴木出版



少し割れたたまごから顔をのぞかせているのは“たまごにいちゃん”。たまごにいちゃんは、もうたまごから出ていいころなのに、まだたまごから出たくない…そんなおにいちゃんです。ひよこの弟が大きくてもたまごにいちゃんは平気です。だって、いつでもお母さんにあつたてもらえるから…♪おにいちゃんらしい頼もしい喋り方と、まだまだたまごの甘えん坊な様子がとっても読んでいてかわいらしい絵本です。たまごにいちゃんはそのたまごな見た目を存分に利用して、水に浮かんで遊んだり、他の動物の体にこっそり隠れたりして遊びます。こぼと組の子もその様子を見て、くすくす笑っていました。たまご生活を楽しんでいたたまごにいちゃんですが、ある日、殻を割ろうとするからずい追いかけられて…。「がんばる！たまごにいちゃん」や「やっぱりたまごねえちゃん」など、色々なシリーズもあるので併せて読む楽しさもあります。ぜひ読んでみてください。

〈こぼと組〉H 先生

ロボット・カミイ

〈作〉古田 足日 〈絵〉堀内 誠一 〈出版〉福音館書店

絵本、というよりは児童書になります。

たけしとようこが段ボールでロボットを作りました。紙で作ったロボットなのでふたりは「カミイ」と名付けます。たけしがカミイに「返事をしろ！」と命令すると、カミイは本当に返事をして動き出したのです。しかし動き出したはいいけれど、カミイはいたずらっ子のわがままロボット。たけしとようこは自分の幼稚園に連れていきますが、カミイの困った行動に子どもたちは困り果ててしまいます。集団生活での子どもたちの心理を巧みにとらえた作品です。

この本は挿絵が少し入っているだけでほとんどが文字です。色々な想像を膨らませながら見てほしいと思いつきました。とても長いお話で章ごとに数日かけて読み進めましたが、子どもたちは「今日もカミイの続きを読んで！」と話が進んでいくことを楽しみにしていました。幼稚園が舞台であるため、登場人物のカミイやクラスの子もたちと同じ気持ちになってお話の世界に入り込んでいたような気がします。最後の章は少し驚きの展開に。その場面では息のみ、真剣に見ていた子どもたちが印象的でした。

〈ふじ組〉K 先生



※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。

読み聞かせノートより

ゆきのようせい

〈作・絵〉松田 奈那子 〈監修〉石黒誠 〈出版〉岩崎書店

先日、雪が降ったので、雪にまつわるお話を選びました。“ゆきむし”という冬をお知らせに来る虫が主人公のお話。実在する虫のお話なので、そういう虫がいるんだと覚えてくれるといいな、雪で遊んだことを思い出してくれるといいなと思いました。子どもたちは真剣な表情で聞いてくれました。



(ふじ組 Kさん)

ばけばけばけばけばけたくん かくれんぼの巻

〈文・絵〉岩田 明子 〈出版社〉大日本図書

食べたものに変身してしまうばけたくん。今日は商店街で食べ歩き。お店の商品に隠れているばけたくんを見つけながら読み進めていきます。カラフルな絵にまぎれこんでいるばけたくんを、ひよこのみんなは、声を出したり、立ち上がったらしながら一緒にさがしてくれました。



(ひよこ組 Hさん)

まだまだ完全には元に戻らない日常。大人たちはつい「あれもできなかった」「これも我慢させないと」「かわいそう」とネガティブな方に目を向けがちですが、毎日目をキラキラさせて遊び回る子どもたちを見て、この子たちはきっと「今」「この時」を最高に楽しんでいるんだと、認識をあらためさせられます。

今年度も、絵本の読み聞かせ、秋祭りの古絵本市、年長さんの絵本の部屋ご招待と様々な活動をさせていただきました。ふれーめんの活動が、子どもたちが絵本をもっと好きになってくれるきっかけの一つになれば嬉しいです。

〈ふれーめん 役員一同〉



編集後記